

会 社 名 西日本旅客鉄道株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 倉坂 昇治
(コード番号 9021 東証プライム市場)
問 合 せ 先 コーポレートコミュニケーション部長 皆川 真寛
(TEL. 06-6375-8889)

当社が2025年11月5日に公表いたしました「2026年3月期 第2四半期決算説明会」資料の記載内容の一部に誤りがありましたので、下記のとおり訂正いたします。

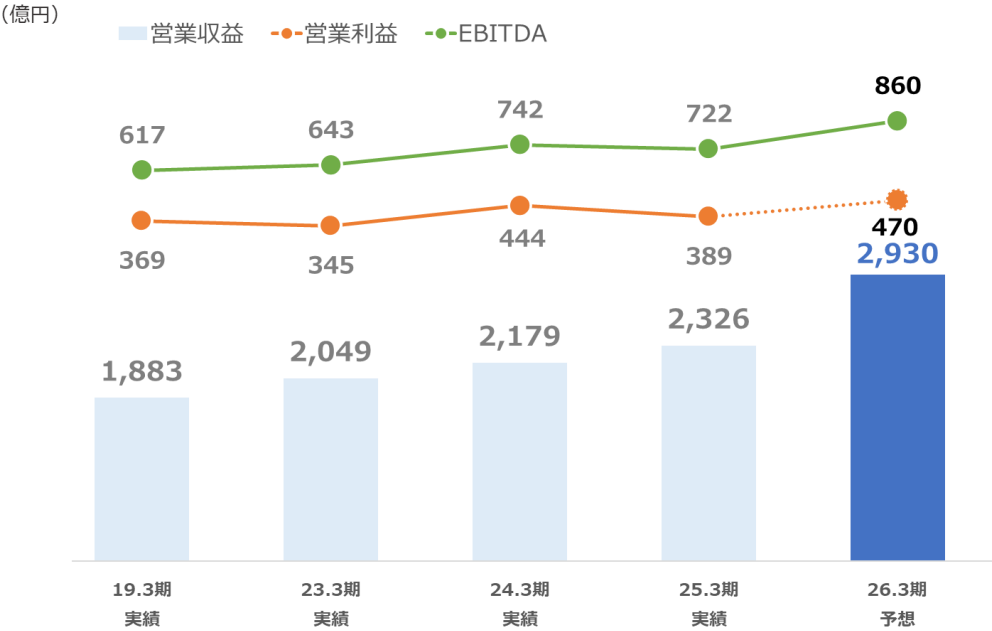
10 ページ「不動産業」の下表「26. 3期 2Q実績のポイント」のうち、「ショッピングセンター業」に係る数値を訂正いたします。訂正後の該当ページは、別紙のとおりです。

(訂正前) ・通期営業利益予想を見直し (120 億円→145 億円)

(訂正後) ・通期営業利益予想を見直し (125 億円→145 億円)

以上

不動産業の実績・計画（通期）



*19.3期実績は「収益認識に関する会計基準」適用の影響を加味していません
※25.3期より、JR西日本の高架下貸付業の計上セグメントを「モビリティ業」から「不動産業」へ変更。
前年同期の金額も、変更後の区分に基づき組み替えております。

(単位：億円)	25.3期2Q 実績	26.3期2Q 実績	26.3期 通期予想
営業収益（主な内訳）	1,139	1,236	2,930
不動産賃貸・販売業	624	615	1,560
うち不動産賃貸	303	302	625
不動産販売	320	312	935
ショッピングセンター業	309	360	790
ホテル業	199	255	540
営業利益（主な内訳）	220	255	470
不動産賃貸・販売業	115	113	195
うち不動産賃貸	90	78	120
不動産販売	25	35	75
ショッピングセンター業	63	83	145
ホテル業	▲19	6	25
EBITDA	378	438	860

※各内訳は主な子会社の合計値であり、その合計はセグメント計と一致しません

26.3期 2Q実績のポイント

不動産賃貸・販売業	- 賃貸は、前年SPC売却による反動減やまちづくりプロジェクト（大阪）の減価償却費等の費用増によって、対前年▲11億円の減益 - 販売は、投資家向け販売の反動減により対前年減収も、住宅分譲販売の利益率向上によって、対前年+9億円の増益
ショッピングセンター業	- インバウンド需要等の取り込み、京阪神エリアの拠点型SCや25年3月に新規開業した広島駅ビルが好調に推移したことか ら、対前年+20億円増益で2Qとして過去最高益 - 通期営業利益予想を見直し(125億円→145億円)
ホテル業	近畿圏を中心にした国内需要の取り込みや前年開業経費の反動減により、対前年+26億円の増益